

被災者の力になりたい

東日本大震災

陸路、空路から東北へ。甚大な被害が出ている東日本大震災発生から一夜明けた12日、県内では緊急消防援助隊やヘリコプター

消防援助隊や医師

次々 出発 トラックで毛布、米も

県、自治体など

の消防防災航空隊、医療関係者が現地へ出発した。各自自治体などからの救援物資も次々と送られ、スパーや市民団体は募金活動を実施。「被災者の力になりたい」という支援の輪は、急速に広がっている。

緊急消防援助隊は、132人で編成。消防岡山市の特別高度救助隊員を含む倉敷、津山など県内14消防本部のし、がれきを取り除く

クレーンを備えた震災工作車など約35台で被災地を目指した。岡山空港からは消防から約70人が車両約40台で宮城県へ向かった。岡山、倉敷、津山など6市は日本水道協会支部の要請で、給水車各1台を派遣した。

一方、石井知事は同日朝の関係部局長会議で「県としても物的・人的支援活動を可能な限り行いたい」と述べた。要請があれば、被災者の心のケア対策として、専門部隊や登録ボランティアの派遣も



被災地への支援などについて協議した関係部局長会議＝県庁
……
検討している。医療支援も広がり、県医師会は、原子力災害に対応できる井戸俊夫会長と松山正春理事の医師2人を福島県のある福島県に派遣。笠井英夫専務理事は「未曾有の大災害。いかなる事態にも対応できる医師を送った」と話した。災害派遣医療チームDMAT(デームアット)も兼ねる日赤県支部の救護班は、原発周辺住民の避難所になっている郡山高校に救護所を開設した。
ほかのDMATの医師や看護師ら計22人も伊丹空港(大阪府)から、津波被害が深刻な岩手県に自衛隊機で入り、病院などで活動。国際医療ボランティア(AMDA)岡山市も医師や看護師らの医療チームを送った。救援物資を送る動きも本格化した。岡山市は、災害時相互応援協定を結んでいる仙台市に毛布1千枚、非常用米1500食、クラッカー2500食などをトラックで輸送。津山市も備蓄している毛布や食料などを提供する準備に入った。

(新見市)からも毛布や乳児の紙おむつ、軍手などを積んだトラックが出発。丸山尚人救援室長は「被災地は寒冷地のため、緊急性の高い物資を用意した」と話した。

●本社HPに動画



東日本大震災の被災地に向かう緊急消防援助隊員＝12日午前9時20分、岡山市中区桑野



消防防災ヘリ「きび」に乗り込む県消防防災航空隊員ら＝12日午前6時45分、岡山空港

日赤県支部の救護班は、原発周辺住民の避難所になっている郡山高校に救護所を開設した。ほかのDMATの医師や看護師ら計22人も伊丹空港(大阪府)から、津波被害が深刻な岩手県に自衛隊機で入り、病院などで活動。国際医療ボランティア(AMDA)岡山市も医師や看護師らの医療チームを送った。救援物資を送る動きも本格化した。岡山市は、災害時相互応援協定を結んでいる仙台市に毛布1千枚、非常用米1500食、クラッカー2500食などをトラックで輸送。津山市も備蓄している毛布や食料などを提供する準備に入った。

(新見市)からも毛布や乳児の紙おむつ、軍手などを積んだトラックが出発。丸山尚人救援室長は「被災地は寒冷地のため、緊急性の高い物資を用意した」と話した。